

2016年度 決算概要

I. 2016年度 連結業績概要

II. 成長軌道への転換に向けて

III. 補足資料

シャープ株式会社

2017年4月28日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

I . 2016年度 連結業績概要

SHARP

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂きありがとうございます。
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

2016年度 連結業績概要

- ・2016年度の業績は、2月17日公表の通期予想を上回る。
- ・売上高は前年度を下回ったものの、収益は構造改革の取り組みなどにより大きく改善し、下期については、各利益とも黒字に

(単位:十億円)

	2015年度	2016年度				2016年度 通期予想 (2/17)
	通期	上期	下期	通期	前年比	
売上高	2,461.5	919.6	1,130.9	2,050.6	-16.7%	2,050.0
営業利益	-161.9	0.0	62.3	62.4	-	47.4
(利益率)	(-6.6%)	(0.0%)	(5.5%)	(3.0%)		(2.3%)
経常利益	-192.4	-32.0	57.1	25.0	-	9.9
(利益率)	(-7.8%)	(-3.5%)	(5.1%)	(1.2%)		(0.5%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	-255.9	-45.4	20.5	-24.8	-	-27.1
(利益率)	(-10.4%)	(-4.9%)	(1.8%)	(-1.2%)		(-1.3%)

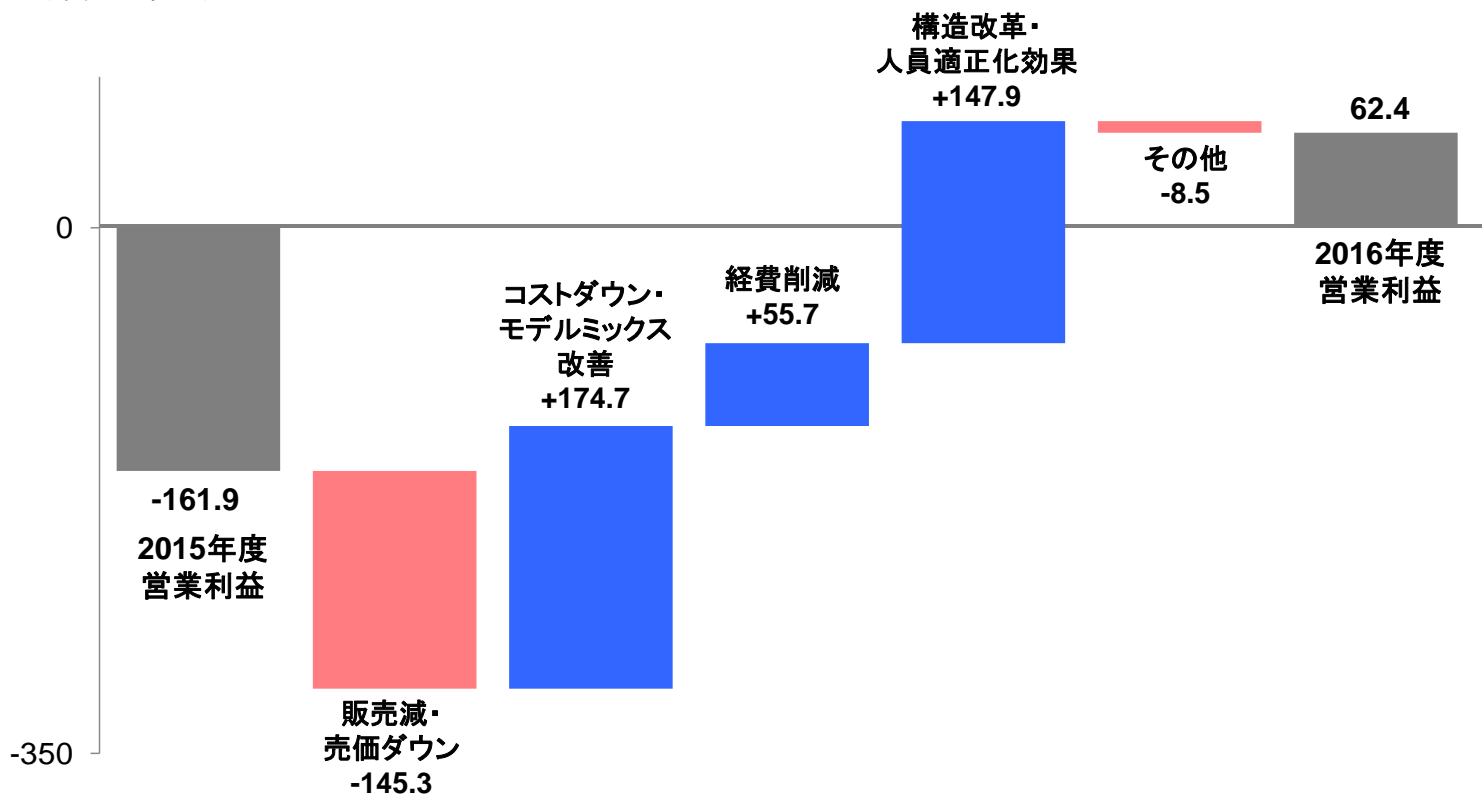
SHARP

2

- ・まず、2016年度の連結業績概要です。
- ・2016年度の売上高は、前年比16.7%減の2兆506億円となりました。為替の影響もあり前年度比では減収となっておりますが、2月17日に公表した通期予想に沿った実績となっております
- ・利益については、構造改革やコストダウン・経費削減の取り組みが想定以上の成果を上げたこと、また、退職給付費用が減少したことなどがあり、前年度から大幅に改善しました。営業利益は、624億円、経常利益も、250億円と黒字化を果たすとともに親会社株主に帰属する当期純損失も、248億円に縮小しました。
- ・通期では、親会社株主に帰属する当期純利益に赤字が残ったものの、下期については、黒字となっています。

2016年度 営業利益増減分析(対前年度)

(単位:十億円)



SHARP

3

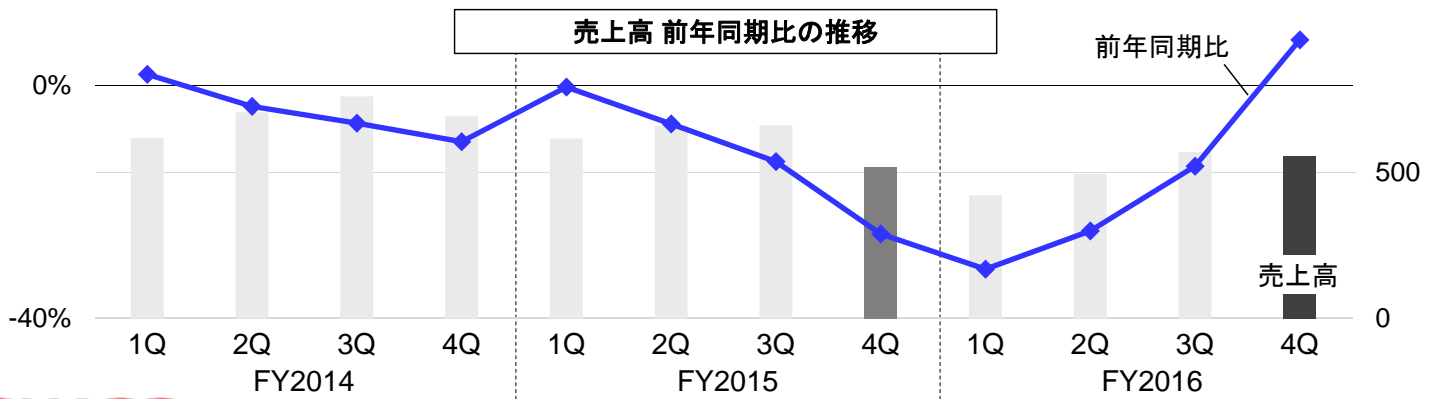
- ・ 次のグラフは、営業利益の前年比での増減分析です。
ご覧のように、営業利益は、前年度の1,619億円の赤字から624億円の黒字へと大幅に改善しています。
- ・ 販売減や売価下落による利益減が1,453億円ありましたが、収益改善の取り組みを進め、「コストダウン及びモデルミックス改善」では1,747億円「経費削減」では557億円「構造改革」では1,479億円の成果を上げたことから、前年度を大幅に上回る営業利益を確保することができました。

2016年度 第4四半期 連結業績概要

- ・2016年度 第4四半期の売上高は、2014年度第1半期以来、前年同期を上回る
- ・収益は大きく改善し、各利益とも引き続き黒字

(単位:十億円)

	2015年度	2016年度	
	4Q	4Q	前同比
売上高	518.5	559.3	+7.9%
営業利益 (利益率)	-132.9 (-25.6%)	43.5 (7.8%)	-
経常利益 (利益率)	-139.6 (-26.9%)	40.3 (7.2%)	-
親会社株主に帰属する四半期純利益 (利益率)	-147.6 (-28.5%)	16.2 (2.9%)	-



SHARP

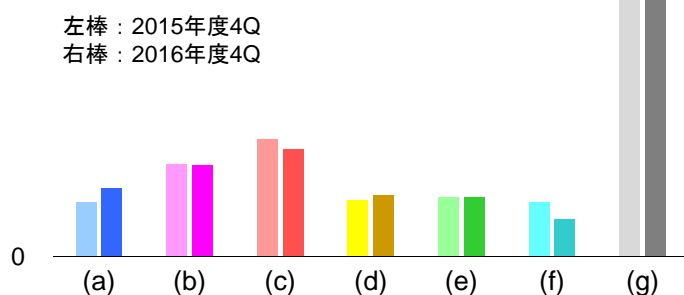
- ・ 次のスライドは、2016年度 第4四半期の連結業績概要です。
- ・ 売上高は、前年同期比+7.9%の5,593億円
営業利益は、435億円、
経常利益は、403億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、162億円となりました。
- ・ 第4四半期は、各利益が大きく改善したことに加え、
成長軌道への転換に向け、事業拡大に取り組んだことから、
売上高が、2014年度の第1四半期以来、11四半期ぶりに前年同期を上回りました。

セグメント別売上高

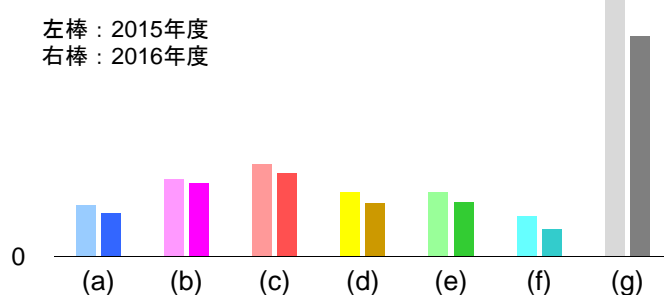
※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。(単位:十億円)

	2015年度		2016年度			
	4Q	通期	4Q	前同比	通期	前年比
(a) IoT通信	43.4	197.4	54.5	+25.7%	164.7	-16.5%
(b) 健康・環境システム	73.5	298.2	73.1	-0.5%	282.1	-5.4%
(c) ビジネスソリューション	93.9	355.1	85.7	-8.8%	317.7	-10.5%
(d) カメラモジュール	44.8	245.0	48.7	+8.9%	204.7	-16.4%
(e) 電子デバイス	47.5	244.9	47.1	-0.8%	208.9	-14.7%
(f) エネルギーソリューション	43.5	156.8	30.2	-30.5%	103.6	-33.9%
(g) ディスプレイデバイス	208.0	1,086.6	239.0	+14.9%	842.0	-22.5%
小計	554.9	2,584.3	578.6	+4.3%	2,124.0	-17.8%
調整額	-36.3	-122.7	-19.3	-	-73.4	-
合計	518.5	2,461.5	559.3	+7.9%	2,050.6	-16.7%

第4四半期



通期



SHARP

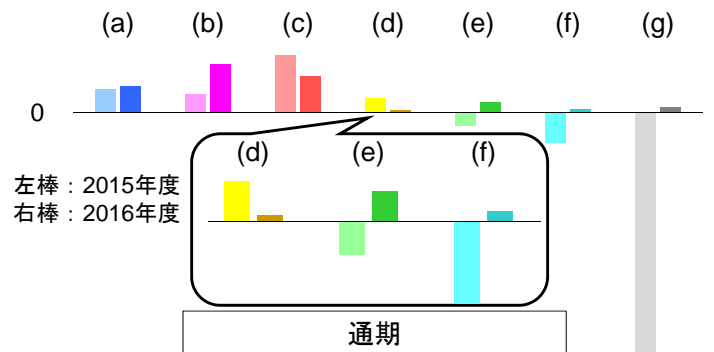
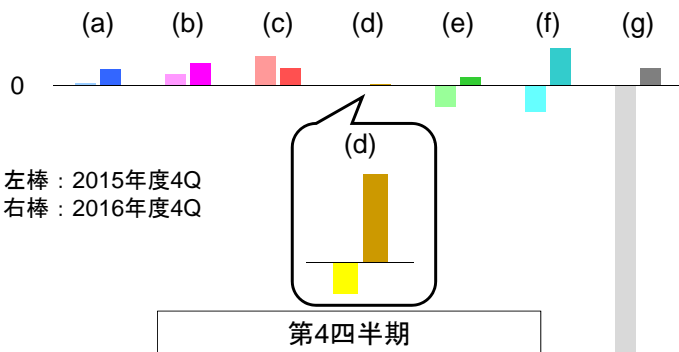
5

- ・ 次のスライドは、セグメント別売上高の一覧です。
- ・ IoT通信の第4四半期の売上高は、新規顧客の開拓の効果もあり、第3四半期に続いて、前年同期を上回りましたが、通期の売上高は、上期の販売減が影響し、前年比16.5%減の1,647億円となりました。
- ・ 健康・環境システムは、空気清浄機や洗濯機などが好調に推移しましたが、アジアでエアコンや冷蔵庫の市況が低調であったため、通期の売上高は前年比5.4%減の2,821億円となりました。
- ・ ビジネスソリューションは、40型タッチディスプレイやラインアップを拡充したサイネージが好調に推移したものの、北米を中心とした複合機の販売減により、前年比10.5%減の3,177億円となりました。
- ・ カメラモジュールは、第3四半期までの大手スマートフォン顧客向け需要の減少に伴う売上減が影響し、通期では、前年比16.4%減の2,047億円となりました。第4四半期の売上高は、積極的な拡販の効果により、前年同期を上回っています。
- ・ 電子デバイスは、レーザー関連商品の売上拡大もありましたが、スマートフォン向けセンサモジュールの需要減少の影響により、売上高は前年比14.7%減の2,089億円となりました。
- ・ エネルギーソリューションは、国内における住宅用、産業用太陽電池需要の低迷により、前年比33.9%減の1,036億円となりました。
- ・ ディスプレイデバイスは、大手顧客向けスマートフォン用パネルの需要減や北米液晶テレビ事業のブランドビジネス移行の影響もあり、前年比22.5%減の8,420億円となりましたが、第4四半期は、パソコン用中型パネルの売上増、中国液晶テレビの販売拡大などにより、前年同期を大きく上回りました。

セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2015年度		2016年度			
	4Q	通期	4Q	前同比	通期	前年比
(a) IoT通信	0.8 (1.9%)	14.5 (7.3%)	6.7 (12.4%)	8.1倍	16.3 (9.9%)	+12.4%
(b) 健康・環境システム	4.4 (6.1%)	11.7 (3.9%)	9.1 (12.5%)	2.0倍	29.9 (10.6%)	2.5倍
(c) ビジネスソリューション	11.9 (12.7%)	35.8 (10.1%)	7.1 (8.3%)	-40.2%	22.5 (7.1%)	-37.1%
(d) カメラモジュール	-0.1 (-0.4%)	9.1 (3.7%)	0.4 (1.0%)	-	1.3 (0.6%)	-85.7%
(e) 電子デバイス	-8.3 (-17.6%)	-7.6 (-3.1%)	3.4 (7.3%)	-	6.7 (3.2%)	-
(f) エネルギーソリューション	-10.7 (-24.6%)	-18.4 (-11.7%)	14.9 (49.6%)	-	2.2 (2.1%)	-
(g) ディスプレイデバイス	-124.6 (-59.9%)	-177.2 (-16.3%)	7.1 (3.0%)	-	3.5 (0.4%)	-
小計	-126.6 (-22.8%)	-132.1 (-5.1%)	49.1 (8.5%)	-	82.5 (3.9%)	-
調整額	-6.2	-29.8	-5.6	-	-20.1	-
合計	-132.9 (-25.6%)	-161.9 (-6.6%)	43.5 (7.8%)	-	62.4 (3.0%)	-



SHARP

6

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。
- ・ IoT通信の2016年度の営業利益は、コストダウンや経費削減により、前年比12.4%増の163億円となりました。
- ・ 健康・環境システムは、販売の減少はありましたが、物流や海外オペレーションの適正化によるコストダウン・経費削減に取り組んだことから、前年比2.5倍の299億円と大幅に改善しました。
- ・ ビジネスソリューションは、北米を中心とした複合機の販売減の影響を挽回すべく経費削減やコストダウンに取り組みましたが、前年比37.1%減の225億円の黒字にとどまりました。
- ・ カメラモジュールは、構造改革の推進や経費削減に取り組んだものの、販売減の影響をカバーしきれず、前年比85.7%減の13億円の黒字にとどまりました。
- ・ 電子デバイスは、コストダウンや固定費削減に加え、構造改革を強力に推し進めたことから、黒字化し、67億円の営業利益となっています。
- ・ エネルギーソリューションは、国内市場の需要低迷に伴う影響が大きかったものの、構造改革推進に伴う原材料契約の見直しやコストダウンなどにより、赤字であった前年度から大幅に改善し、22億円の黒字となりました。
- ・ ディスプレイデバイスは、大手顧客向けパネルの需要減少などがありましたが、テレビ事業の黒字継続、構造改革に伴うコストダウンや経費削減の取り組みにより、OLED開発費などの負担もあるなか、前年の1,772億円の赤字から35億円の黒字へと大幅に改善しました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2015年度	2016年度					
	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	前年 増減額
営業利益	-161.9	0.0	18.8	43.5	62.3	62.4	+224.4
営業外損益	-30.4	-32.1	-2.0	-3.1	-5.2	-37.3	-6.8
内:支払利息	-18.7	-4.0	-1.3	-1.0	-2.3	-6.3	+12.3
持分法による投資損益	+1.4	-19.1	-0.5	+0.9	+0.4	-18.6	-20.1
経常利益	-192.4	-32.0	16.7	40.3	57.1	25.0	+217.5
特別損益	-38.6	-2.4	-5.5	-17.6	-23.1	-25.6	+13.0
内:投資有価証券売却損益	+1.9	+1.3	+0.2	+1.6	+1.8	+3.2	+1.2
訴訟損失引当金戻入額	+2.0	-	-	-	-	-	-2.0
受取和解金	+8.4	-	+6.2	-	+6.2	+6.2	-2.2
減損損失	-24.7	-5.7	-12.0	-16.8	-28.9	-34.6	-9.9
事業構造改革費用	-38.1	-	-	-	-	-	+38.1
税前利益	-231.1	-34.5	11.2	22.7	33.9	-0.5	+230.5
法人税等 他	-24.8	-10.8	-6.9	-6.4	-13.4	-24.2	+0.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	-255.9	-45.4	4.2	16.2	20.5	-24.8	+231.0

SHARP

7

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 2016年度の「営業外損益」は、
下期については支払利息の減少もあり改善したものの、
上期に「持分法による投資損益」が悪化した影響から、
通期では前年に比べ、悪化しました。
- ・ また、特別利益として、受取和解金や投資有価証券売却益を計上する一方、
引き続き構造改革の取り組みを進め、減損損失などを計上しました。

連結貸借対照表推移

- ・2017年3月末の純資産は、12月末の2,964億円から増加し、3,078億円に
- ・自己資本比率も16.6%に上昇

(単位:十億円)

	2015年度	2016年度			2015年度	2016年度	
	3月末	12月末	3月末		3月末	12月末	3月末
現預金	275.3	451.7	482.1	支払手形・買掛金	278.6	352.2	350.5
受取手形・売掛金	287.2	386.5	375.5	短期借入金	612.5	104.5	113.5
たな卸資産	184.3	209.9	217.8	1年内社債	20.0	0.0	0.0
その他	218.9	138.5	118.1	その他	463.5	353.9	337.5
流動資産計	965.9	1,186.8	1,193.7	流動負債計	1,374.8	810.8	801.6
有形固定資産	351.2	363.9	349.6	社債	40.0	40.0	40.0
無形固定資産	41.6	38.7	42.3	長期借入金	40.2	490.4	490.3
投資その他資産	211.8	186.8	187.9	その他	146.7	138.6	133.9
固定資産計	604.6	589.4	579.9	固定負債計	227.0	669.0	664.2
繰延資産	0.0	0.0	0.0	純資産	-31.2	296.4	307.8
資産合計	1,570.6	1,776.4	1,773.6	負債純資産合計	1,570.6	1,776.4	1,773.6
				自己資本比率	-2.7%	16.1%	16.6%

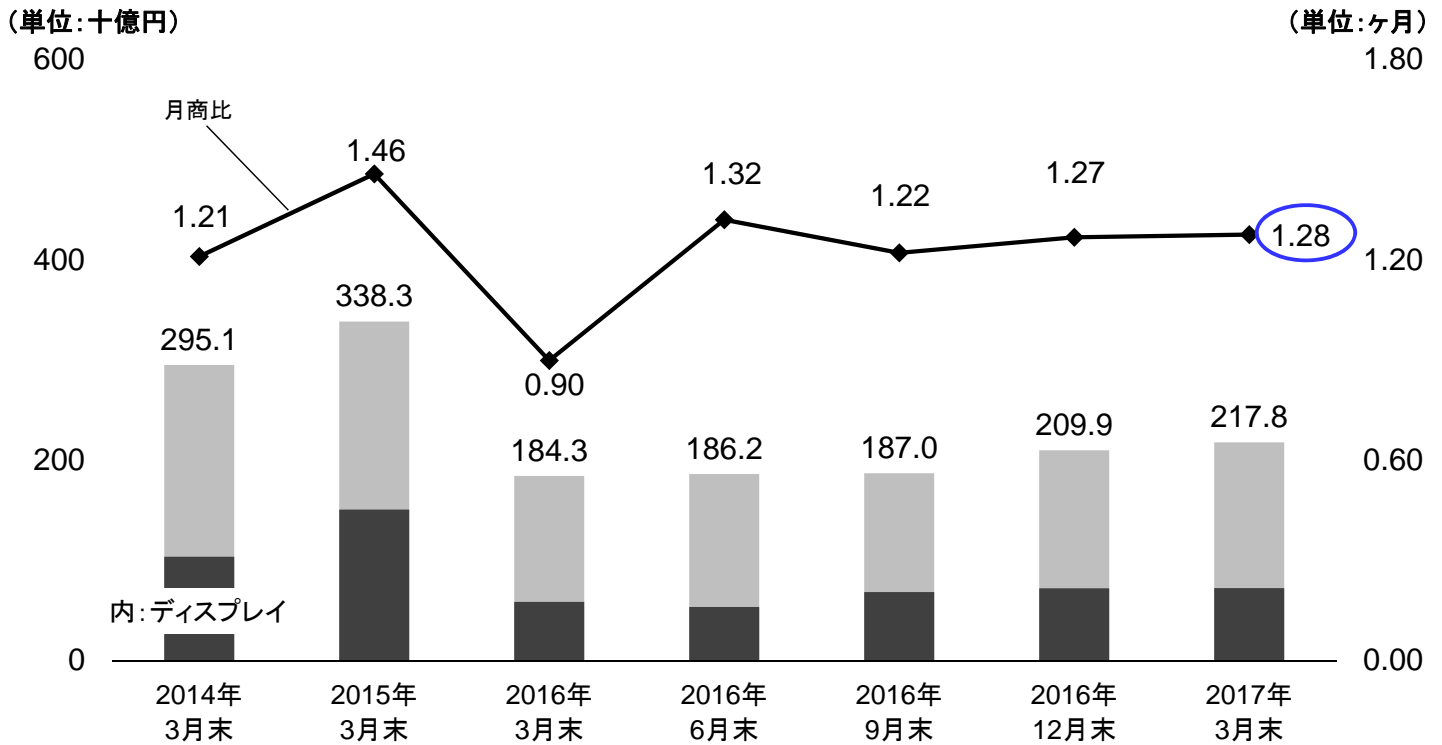
SHARP

8

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 2016年度末の「現預金」は、収益の順調な回復に伴い、第3四半期末の4,517億円から、4,821億円へと増加しています。
- ・ 2016年度末の「純資産」は、為替によるマイナス影響はありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益が黒字であったことから、第3四半期末に比べ113億円増加し、3,078億円となりました。
- ・ 「自己資本比率」についても、第3四半期末の16.1%から16.6%に改善しています。

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、SKYTEC UMC社の子会社化により、2016年12月末から若干増加し、2,178億円に
- ・2017年度以降の販売計画を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持



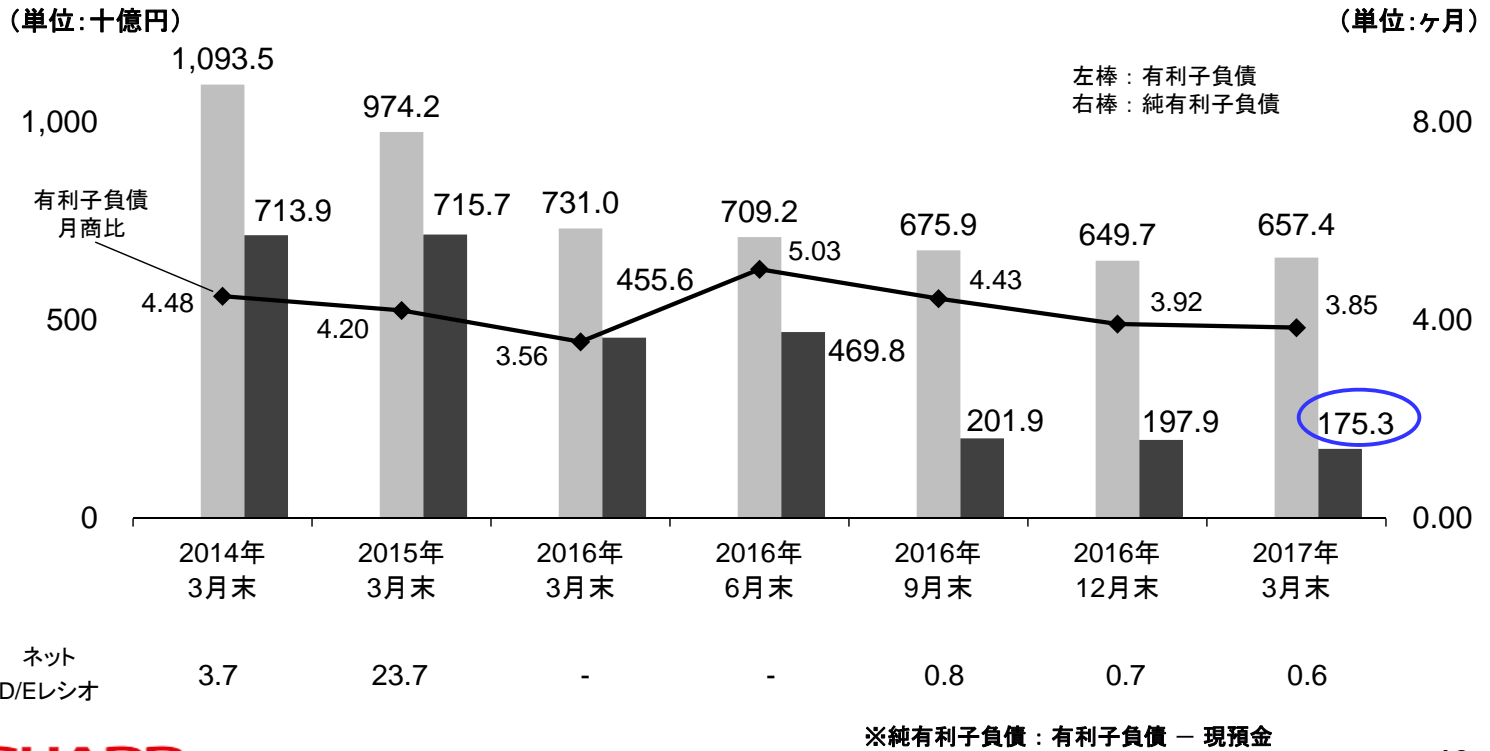
SHARP

9

- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・ 2016年度末の「たな卸資産」は、欧州におけるテレビの製造販売・サービスの促進によるシャープブランド強化のため、SKYTEC UMC社を子会社化したことから、これに伴う在庫の増加があり、第3四半期末と比べ79億円増加し、2,178億円となりました。月商比は、ほぼ横ばいで、1.28ヶ月となっています。
- ・ 今後の販売計画を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持しております。

有利子負債の推移

- ・2017年3月末の有利子負債は、12月末から若干増加し、6,574億円となる。
月商比では3.92ヶ月から3.85ヶ月に減少
- ・純有利子負債※は、2016年12月末の1,979億円から1,753億円に減少



SHARP

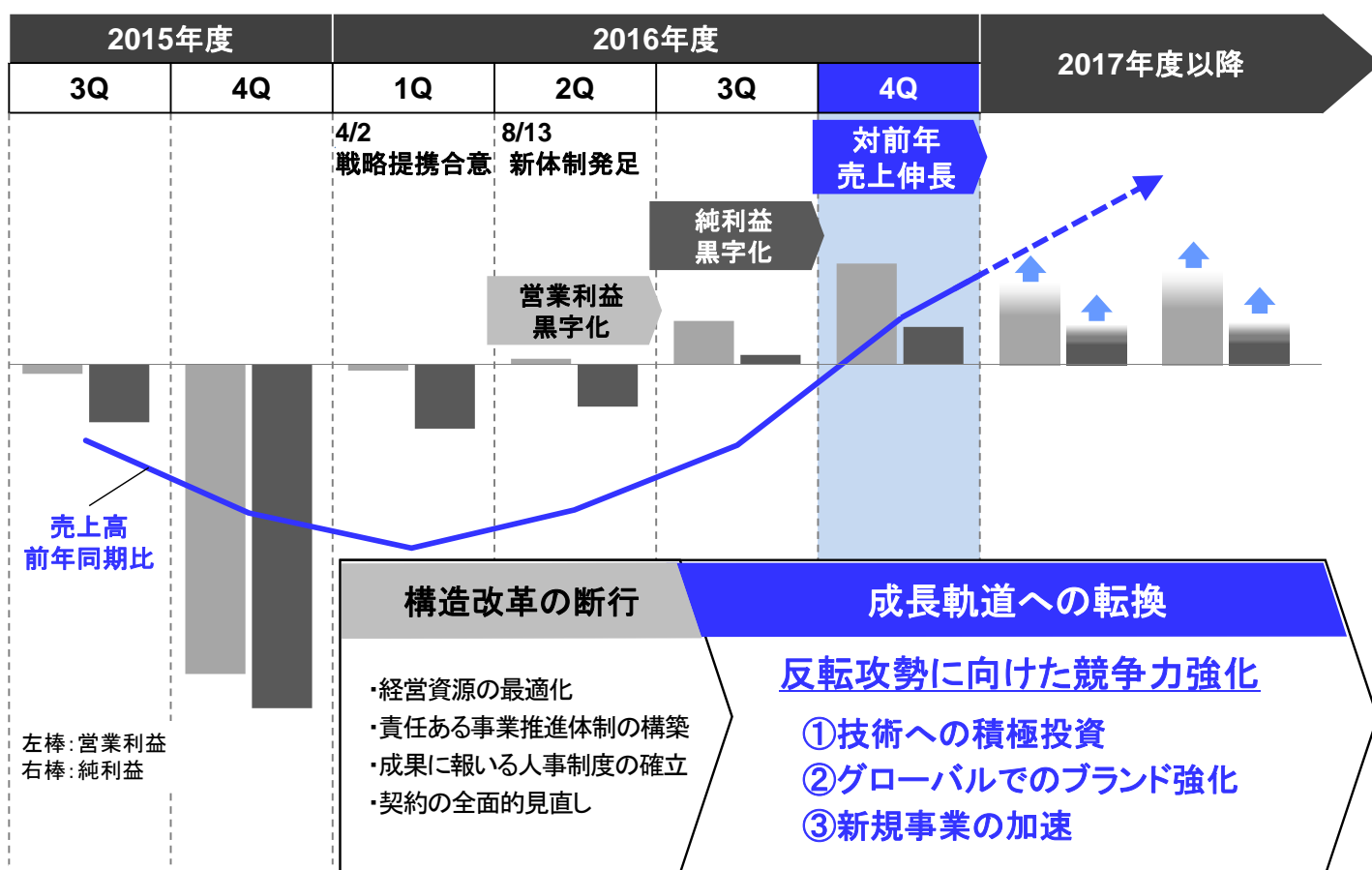
10

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2016年度末の有利子負債も、SKYTEC UMC社の子会社化により、第3四半期末から若干増加し、6,574億円となりました。
純有利子負債は、収益の順調な改善に伴い現預金が増加したことから、226億円減少し、1,753億円となりました。
- ・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュフローの改善を図ります。
- ・ なお、2017年度 通期の業績予想につきましては、当社を取り巻く事業環境やリスクを勘案し、現在、策定中ですので、5月26日に本社で開催予定の「中期経営計画説明会」にて公表させていただきます。

Ⅱ．成長軌道への転換に向けて

- ・次は、成長軌道への転換に向けた取り組みです。

成長軌道への転換 ～構造改革から事業拡大へ～



SHARP

12

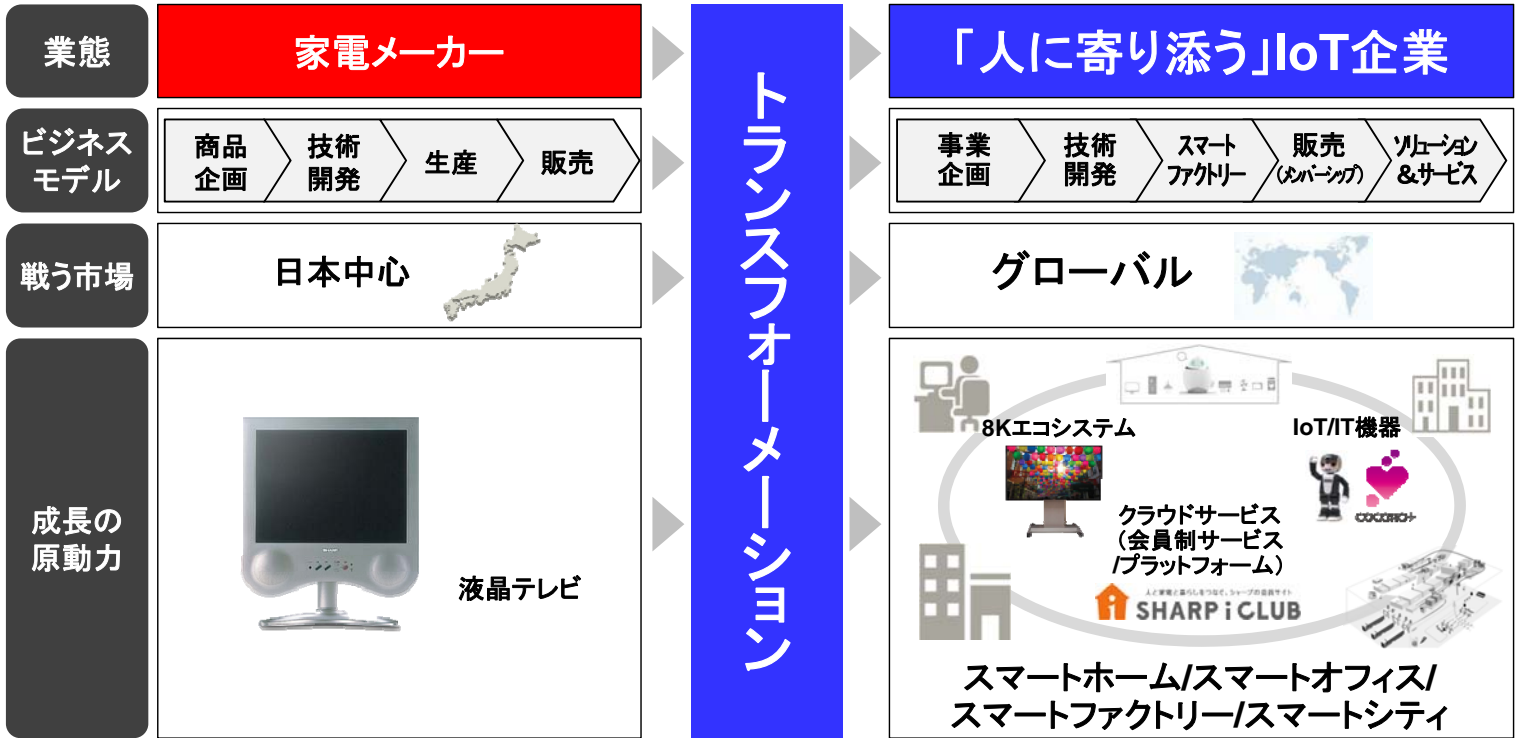
- ・ 構造改革の効果もあり、2016年度 第2四半期には営業利益を、そして第3四半期には当期純利益を黒字化できておりました。
- ・ 加えて、第4四半期は、売上高が前年同期を上回るとともに、全セグメントの営業利益を黒字化できました。
- ・ 今後、構造改革を継続しつつ、成長軌道への転換を進めてまいります。

新生シャープの方向性

これまで

2017年
~2019年

これから



SHARP

13

- ・最後に、「新生シャープの方向性」をまとめております。
- ・シャープは、2017年から2019年にかけて、単なる家電メーカーから、グローバルに展開する「人に寄り添うIoT企業」へとトランスフォーメーション(転換)していきます。
- ・そして、スマートホーム、スマートオフィス、スマートファクトリー、スマートシティが連携するスマートな社会を実現してまいります。
- ・取り組みの詳細につきましては、「中期経営計画説明会」でお話しさせていただきます。

Ⅲ.補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめておりますのでご確認下さい。
- ・ ご清聴ありがとうございました。

連結業績概要

(単位:十億円)

	2015年度			2016年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,279.6	1,181.9	2,461.5	919.6	1,130.9	2,050.6
営業利益	-25.1	-136.8	-161.9	0.0	62.3	62.4
(利益率)	(-2.0%)	(-11.6%)	(-6.6%)	(0.0%)	(5.5%)	(3.0%)
経常利益	-38.6	-153.8	-192.4	-32.0	57.1	25.0
(利益率)	(-3.0%)	(-13.0%)	(-7.8%)	(-3.5%)	(5.1%)	(1.2%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	-83.6	-172.3	-255.9	-45.4	20.5	-24.8
(利益率)	(-6.5%)	(-14.6%)	(-10.4%)	(-4.9%)	(1.8%)	(-1.2%)

SHARP

15

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2015年度				2016年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	618.3	661.3	663.3	518.5	423.3	496.2	571.5	559.3
営業利益	-28.7	3.5	-3.8	-132.9	-2.5	2.5	18.8	43.5
(利益率)	(-4.7%)	(0.5%)	(-0.6%)	(-25.6%)	(-0.6%)	(0.5%)	(3.3%)	(7.8%)
経常利益	-33.3	-5.2	-14.1	-139.6	-22.3	-9.7	16.7	40.3
(利益率)	(-5.4%)	(-0.8%)	(-2.1%)	(-26.9%)	(-5.3%)	(-2.0%)	(2.9%)	(7.2%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	-33.9	-49.6	-24.7	-147.6	-27.4	-17.9	4.2	16.2
(利益率)	(-5.5%)	(-7.5%)	(-3.7%)	(-28.5%)	(-6.5%)	(-3.6%)	(0.7%)	(2.9%)

SHARP

16

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2015年度			2016年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
IoT通信	117.6	79.7	197.4	72.3	92.4	164.7
健康・環境システム	150.5	147.6	298.2	139.0	143.1	282.1
ビジネスソリューション	172.3	182.8	355.1	159.6	158.0	317.7
カメラモジュール	121.8	123.1	245.0	83.7	121.0	204.7
電子デバイス	129.3	115.6	244.9	93.4	115.4	208.9
エネルギーソリューション	78.7	78.1	156.8	52.2	51.3	103.6
ディスプレイデバイス	558.5	528.1	1,086.6	357.5	484.5	842.0
小計	1,329.0	1,255.2	2,584.3	958.0	1,166.0	2,124.0
調整額	-49.3	-73.3	-122.7	-38.3	-35.0	-73.4
合計	1,279.6	1,181.9	2,461.5	919.6	1,130.9	2,050.6

SHARP

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

17

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2015年度			2016年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
IoT通信	10.5 (8.9%)	4.0 (5.0%)	14.5 (7.3%)	6.1 (8.5%)	10.1 (11.0%)	16.3 (9.9%)
健康・環境システム	2.5 (1.7%)	9.2 (6.2%)	11.7 (3.9%)	13.1 (9.5%)	16.7 (11.7%)	29.9 (10.6%)
ビジネスソリューション	16.7 (9.7%)	19.0 (10.4%)	35.8 (10.1%)	11.2 (7.0%)	11.2 (7.1%)	22.5 (7.1%)
カメラモジュール	8.2 (6.8%)	0.8 (0.7%)	9.1 (3.7%)	-1.1 (-1.4%)	2.4 (2.1%)	1.3 (0.6%)
電子デバイス	-0.2 (-0.2%)	-7.3 (-6.4%)	-7.6 (-3.1%)	-0.3 (-0.4%)	7.0 (6.1%)	6.7 (3.2%)
エネルギーソリューション	-2.6 (-3.4%)	-15.7 (-20.2%)	-18.4 (-11.7%)	-4.8 (-9.2%)	7.0 (13.7%)	2.2 (2.1%)
ディスプレイデバイス	-41.5 (-7.4%)	-135.7 (-25.7%)	-177.2 (-16.3%)	-14.6 (-4.1%)	18.2 (3.8%)	3.5 (0.4%)
小計	-6.3 (-0.5%)	-125.7 (-10.0%)	-132.1 (-5.1%)	9.5 (1.0%)	73.0 (6.3%)	82.5 (3.9%)
調整額	-18.8	-11.0	-29.8	-9.4	-10.6	-20.1
合計	-25.1 (-2.0%)	-136.8 (-11.6%)	-161.9 (-6.6%)	0.0 (0.0%)	62.3 (5.5%)	62.4 (3.0%)

SHARP

※()内の数字は営業利益率です。

18

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2015年度				2016年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
IoT通信	56.8	60.8	36.3	43.4	35.2	37.1	37.8	54.5
健康・環境システム	74.7	75.8	74.0	73.5	67.8	71.1	69.9	73.1
ビジネスソリューション	80.6	91.7	88.8	93.9	77.5	82.1	72.3	85.7
カメラモジュール	75.7	46.0	78.3	44.8	32.6	51.0	72.2	48.7
電子デバイス	60.8	68.5	68.0	47.5	42.3	51.0	68.2	47.1
エネルギーソリューション	36.8	41.8	34.5	43.5	21.8	30.4	21.1	30.2
ディスプレイデバイス	258.2	300.3	320.0	208.0	167.1	190.3	245.4	239.0
小計	643.9	685.1	700.3	554.9	444.7	513.3	587.3	578.6
調整額	-25.6	-23.7	-36.9	-36.3	-21.3	-17.0	-15.7	-19.3
合計	618.3	661.3	663.3	518.5	423.3	496.2	571.5	559.3

SHARP

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

19

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2015年度				2016年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
IoT通信	4.9 (8.7%)	5.5 (9.1%)	3.1 (8.7%)	0.8 (1.9%)	2.0 (5.8%)	4.1 (11.1%)	3.3 (8.9%)	6.7 (12.4%)
健康・環境システム	0.7 (1.0%)	1.8 (2.4%)	4.7 (6.4%)	4.4 (6.1%)	6.5 (9.7%)	6.5 (9.2%)	7.5 (10.8%)	9.1 (12.5%)
ビジネスソリューション	6.8 (8.4%)	9.9 (10.8%)	7.1 (8.0%)	11.9 (12.7%)	5.9 (7.7%)	5.2 (6.4%)	4.1 (5.8%)	7.1 (8.3%)
カメラモジュール	4.2 (5.6%)	3.9 (8.6%)	1.0 (1.3%)	-0.1 (-0.4%)	0.1 (0.4%)	-1.3 (-2.6%)	2.0 (2.8%)	0.4 (1.0%)
電子デバイス	-1.4 (-2.4%)	1.2 (1.8%)	0.9 (1.4%)	-8.3 (-17.6%)	0.3 (0.9%)	-0.6 (-1.4%)	3.6 (5.3%)	3.4 (7.3%)
エネルギーソリューション	-3.9 (-10.7%)	1.3 (3.2%)	-5.0 (-14.7%)	-10.7 (-24.6%)	-6.3 (-28.8%)	1.4 (4.9%)	-7.9 (-37.6%)	14.9 (49.6%)
ディスプレイデバイス	-31.0 (-12.0%)	-10.4 (-3.5%)	-11.0 (-3.5%)	-124.6 (-59.9%)	-6.8 (-4.1%)	-7.8 (-4.1%)	11.0 (4.5%)	7.1 (3.0%)
小計	-19.7 (-3.1%)	13.3 (2.0%)	0.8 (0.1%)	-126.6 (-22.8%)	1.9 (0.4%)	7.6 (1.5%)	23.8 (4.1%)	49.1 (8.5%)
調整額	-9.0	-9.7	-4.7	-6.2	-4.4	-5.0	-4.9	-5.6
合計	-28.7 (-4.7%)	3.5 (0.5%)	-3.8 (-0.6%)	-132.9 (-25.6%)	-2.5 (-0.6%)	2.5 (0.5%)	18.8 (3.3%)	43.5 (7.8%)

SHARP

※()内の数字は営業利益率です。

20

設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2015年度			2016年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
設備投資	20.9	24.3	45.2	27.4	50.3	77.7
内:ディスプレイ	8.9	13.9	22.8	12.7	21.4	34.1
減価償却費	33.7	34.2	68.0	27.4	32.3	59.7
研究開発費	68.6	61.4	130.1	55.8	50.2	106.1

(単位:円)

為替レート	2015年度			2016年度		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
米ドル	120.80	117.50	119.15	104.30	110.48	107.39
ユーロ	133.57	128.59	131.08	116.66	117.93	117.29

四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2015年度				2016年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
設備投資	9.7	11.1	8.2	16.0	10.2	17.2	35.4	14.8
内:ディスプレイ	3.8	5.1	4.9	8.9	5.6	7.0	14.1	7.2
減価償却費	18.0	15.7	17.0	17.2	13.5	13.8	16.2	16.1
研究開発費	36.3	32.3	33.5	27.9	29.7	26.1	29.3	20.8

(単位:円)

為替レート	2015年度				2016年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
米ドル	120.37	121.24	120.51	114.49	107.16	101.44	108.32	112.64
ユーロ	132.66	134.48	131.46	125.71	120.53	112.78	116.29	119.58

SHARP

Be Original.

